

# 第36回 交流会

## 「支援」のあり方を捉え直す 社会における異言語・異文化とのかかわりから

何かを「当たり前」と捉える社会では、そこから外れている人は「支援」が必要だと見なされがちです。しかし、「できない人」を「できるようにする」という「支援」だけを考えていたりでしょうか。助ける／助けられるという発想を見直し、誰もが「当たり前のこと」を「当たり前に」できる社会のあり方を考えることが求められています。さらに、多様なコミュニティの共生により、お互いの「当たり前」が見えるようになる中で、支援の捉え方も変化しつつあります。

そこで、第36回交流会では、実際に支援に携わってきたお二人をお招きし、それぞれのご経験や支援に対する考え方をお話しいただきます※。海外にルーツを持つ子どもや若者、手話話者であるろう者・難聴者など、多様な対象者とかかわる中で感じた喜びや葛藤についてうかがいます。

その語りを踏まえ、「支援」を多角的に捉え、実現に向けてどのようなアプローチがあり得るのかと一緒に考えていきたいと思います。さらに、日本社会の中の多様な異言語・異文化とどのように向き合っていけるのかについても、参加者のみなさんとともに考える場にできれば幸いです。

### 日 時

**2026年1月17日(土)**  
午後14:00～15:30 (日本時間)

### 会 場

**オンライン(Zoom)**

ログイン方法は申し込み受付後に通知します。

### 参加資格

- 参加費無料／会員・非会員問わずどなたでも参加できます。
- 当日は、すべての時間(14:00-15:30)の参加をお願いします。
- ウェビナーではありません。グループ対話時は、画面オン、ミュート解除をお願いします。

お問い合わせ

言語文化教育研究学会 交流委員会  
[interact@alce.jp](mailto:interact@alce.jp)



一般社団法人  
言語文化教育研究学会  
Association for Language and Cultural Education

※なお、発表者の発言は個人の見解であって、所属組織を代表するものではありません。

**どなたでもお気軽にご参加ください！**